

令和3年度第2回秋田県立近代美術館協議会 書面開催（要旨）

書面開催について

令和3年12月9日（木）	事務局から各委員に対し対面による協議会開催通知を送付
令和4年1月13日（木）	県内における新型コロナウイルス感染症の感染状況、積雪の状況により、書面による開催に変更決定。協議会委員へ連絡。
1月20日（木）	事務局から書面開催への変更通知、資料送付
2月11日（金）	協議会委員からの書面による意見等回答期限
3月10日（木）	書面による質問及び意見等に対する回答集約、送付

書面提出委員

会長	横井	朗
副会長	佐藤	克己
委員	池田	聖子
”	石井	令人
”	伊藤	聖子
”	小笠原	豊
”	鎌田	あかね
”	河田	美智子
”	長沢	薫
”	渡辺	歩

質疑応答（表記について ●委員 →事務局）

【令和3年度事業概況、令和4年度事業概要について】

- 昨年度に続き、コロナ対応等様々な制約等があるが、まずは県民に来ていただけるような企画展等を期待する。
→当館、また他館でこれまで開催した展覧会の評価や来館のアンケートなどを参考に、多くの県民に来館いただける展覧会を企画したい。
- 企画展の内覧会に伺った際、スタッフに作品撮影の可否について質問したところ、担当者ではないので分からないとのことだったが、内覧会スタッフは、どのような方が関わっているのか。そのような場合は、担当につないでもらえると有難い。
→内覧会スタッフは、解説員、ボランティアがいる。
この時は内覧会のため、解説員に撮影の可否について伝わっていなかったと思われる。通常、展覧会中の撮影の可否については、展覧会担当から連絡している。

●寄贈美術品が45点あったとのことだが、これらの美術品の内容は公表されることはあるか。

→寄贈美術品の一覧は、翌年度に発行する近代美術館年報に掲載している。令和3年度の年報は現在作成中であり、発行後、当館ホームページより閲覧可能となる。

●ふれんどりーギャラリーの場所が少し分かりづらく感じた。5F、6Fの展示室からふれんどりーギャラリーへの導線にわかりやすいサインがあるとよいと感じた。

→Mapの作成を検討したい。

●美術展にだけ目が向きがちだが、実習やインターンシップなどでの大学生や高校生の受け入れや創作体験プログラムなど、若い世代の学びの場として、近代美術館は重要な役割をされていると思う。近美での体験が子供たちの数年後に必ず生かされてくると思う。

→このような言葉をいただけてありがたい。

誰でも、言葉だけで説明されるより、実際に見て、触れて、体験する方がずっと物事を理解しやすい。自分で体験すれば、自分と学ぶ対象の間に接点生まれ、主体的な学びになり、次につながるので、美術館での体験を最初の入口にしてどんどん学びを広げてほしいと考えている。

●各展覧会での入場者数のコロナ禍による影響をどのように分析しているか。去年7月の協議会での説明で、高齢者の外出を控える動きに触れていたが、ワクチン接種の進展で変化はあったか。

また、夏休み時期は「第5波」と重なる時期だったが、「カラクリ展」は多くの入場者を記録した。コロナ禍の影響は少なかったということか。これらの分析は次年度以降にいかす知見となる気がする。

→接種は進んでいるものの、コロナがまだ収束しないため以前と比べても明らかに入場者数は回復していない。秋田でもウィズコロナの新しい生活様式が浸透すれば兆しは見えてくるかと思う。

カラクリ展では第5波による秋田県の警戒レベル上昇により、イベントが中止となり入館者数が激減した。第5波がなければ入場者数は2万人を超えていたと思われる。親子で楽しめる内容でリピーターも多かったので惜しまれるところである。今後もこのような内容の展覧会開催を検討したい。

●アンケート結果からは、イベント情報源については、チラシ・ポスター、テレビ・ラジオ、また展覧会によっては新聞・雑誌というところが多く、来場につながるPRはそうした手段が大きいと感じた。

一方で、ネット活用もおおそかにはできないと考えるが、来場につながるかは未知数である。従来からある手段とネットのバランスについては、従来からの手段を大事にして入場者数を確保する一方、ネットには過度に労力をかけないのが無理がないと思う。

ワンソース・マルチユースなどの形でネットでも適切なタイミングで発信するといったように、近代美術館の活動を日常的に届けていくスタンスが適切なのではないかと思う。

PRにあたっては、予備知識が十分ではない人たちにも展覧会の魅力が伝わるような表現を工夫できれば効果が高まると思う。

→まだまだ印刷物、TVCMから情報を得ている人が多い一方で、ネットを活用する人も増えているのは事実である。今後、より増えるネット活用者に対応するため、FacebookやTwitterなどの活用に力を入れていきたい。

●LINE公式アカウントの開設も考えてみてはどうか。HPなどはお客様が能動的にならないと情報が

届かない反面、LINEは登録してもらえれば特典やサービスの他、作品情報もタイムリーに送れる。
→LINEも含めSNSを活用した広報については、引き続き検討していきたい。

●コレクション展の”ウサギをさがせ!”は、どのような展示になるのか興味がある。展覧会のタイトルも重要だと感じる。

→展示のタイトルは言葉選びが難しく、苦慮している。展示前にご意見をいただくことは難しいと思われるが、展示後にいただいたご意見は、その後の参考とさせていただきたい。ウサギ展は、コレクションを楽しく見てもらえるように企画を練って行きたいと考えている。

●全ての展覧会に参加できなかった事が残念で、委員としては申し訳なく思う。地理的に遠く、気軽に立ち寄れる場所ではないというのが口惜しい。

県北在住者にとって、横手は遠く、特に冬などは行くのに勇気の要る場合もあり、出前美術館は良い取り組みだと思っている。入館者数の目標に対し実績が上回っているのは、扇田小学校での出前美術館のみである。コロナ禍でなくても、他へ出掛けていく取り組みは増やしても良いのではないかと。巡回展など検討してみてもどうか。

→出前美術館は、開館当初より遠方の地域で展覧会を開催し、好評を得てきた事業である。近年は当館の予算不足から開催地の市町村や教育委員会にも費用の拠出をお願いし開催してきた。しかしながら、来年度については当館の予算が付かなかったことから開催を見送ることとした。今後も予算を要望し、開催予定地からの協力も得られるよう取り組みを続けたい。

●評価票は改善の余地があると思われる。実際に参加していないものは評価が難しい。

→評価票の項目については、今後、関係機関と検討していきたい。

●資料2は、閉館になっていた時期（コロナ等により）やHPの閲覧回数なども反映させるとわかりやすいのではないかと。

→状況が把握しやすいよう、資料も工夫していきたい。

●アンケートの情報は貴重だが、回答者数が来場者数の1割か、それ以下である。もっと回答者数を増やす試みが必要ではないかと。アンケートを記入するスペースなど、もっと工夫できるのではないかと。

→アンケートについては、来館者が落ち着いて記入が出来る場所と動機付けを考えたい。

●個人的には、カラクリ展がとても良かった。パンフレットを配付し、生徒さんにもPRした。来場者は皆、興味深く見入っており、特に子供はとても楽しそうだと感じた。

鈴木氏の「書き時計」は、もっと動作させる時間帯を増やしても良かったと思う。また、説明文は、子供にはちょうど良い高さであったかもしれないが、大人には少々見づらい位置だと感じた。幅広い世代に楽しんでもいただく事を考えれば検討が必要なのかもしれない。

→カラクリ展は展示されている作品の構造的な面白さとデザインのバランスが巧みで、小さなお子さんからお年寄りまで楽しめる非常に興味深い内容の展覧会となった。

「書き時計」については木製のからくりということもあり、作家ご本人からも故障を避けるため連続稼働は避けて欲しいと言われていた。動く様子をご覧いただけなかったお客様がいたことは当館として

も非常に残念である。

各作品の説明文に関しては、内容が文学的であったりシニカルであったりと、大人向けのものが多かったこともあり、子どもの目線に合わせた高さだと低かったと思う。企画会社には今後の参考・検討材料として伝え、今後同じような展示の機会があった場合には注意したい。

- 展示室に『やさしい鑑賞シート』が設置してあるが、使用方法や設置の意図が伝わりにくい。美術への手招きのツールのように捉えることができるが、素っ気なく設置されているのが残念に思ったり、印刷用紙に統一感がなくコレクション欲を掻き立てない。せっかくの発信が中途半端な感じで物足りなく、もったいない気持ちになる。

→「やさしい鑑賞シート」は開館当初に作成したもので、現在、その残部を配っている。「鑑賞のヒントになるかもしれません」、「鑑賞の一助となれば」、「お手にとってどうぞ」など押しつけがましくない程度に一文を添えて設置してみたいと思う。

- 情報発信の方法の改善を試みてはどうか。Instagramのアカウントを取得しないのは何か理由があるのか。発信不足と発信方向の時代ギャップを感じている。来場者数を一定以上に上げるためには、打つ場所や打ち方をもう一度検討してみてはどうか。

→アンケート協力者の傾向というのにも影響していると思う。Twitter、Facebookでは感想をオンラインで書ける。回答者へのプレゼント企画や、オンラインアンケート（google フォームなど）機能が使えると良い。Instagramは業務との兼ね合いになるが、できれば良いと考える。

- アンケートの『今後見てみたい展示は？』への返答がとても興味深かった。観覧者の、展示から受けた刺激とそこからの興味派生を感じた。希望内容はいわゆる美術からは少し外れているものもあったかもしれないが、垣根を超えて、県民・来場者の興味関心と美術の視点を結びつけるような企画をこれからも組み立てていただきたい。

→特にアンケートで希望の多い展覧会が開けるよう情報を収集し、計画を立てたいと思う。

- 昨年度は大館での出前美術館開催にあたり、感謝申し上げる。中心街活性化に出前美術館が寄与されることを期待している。

→機会があれば、中心街のみならず、中心街から離れた地域の活性化の一助となるよう開催を考えたい。

- 本来は収集・保存・展示・研究が一番の業務であるにも関わらず、限られた予算・時間の中で広報活動にも力を入れてなかなかできることではないと思う。インターネットミュージアム、チラシミュージアムとあらゆる手を尽くしているのではないか。芸術文化を愛好する我々が、様々な立場で情報発信していくことも必要かと思う。

→コロナ禍という現状、来館者減の現状を改善するためには、SNS等を駆使した広報でのアピールが必須と思われる。当館の魅力が若者を含めた年齢層の方々に伝わり、新たに来館へと繋がるような広報の在り方を工夫したい。

- コロナ禍で集客が難しい中、どのような工夫を凝らしたのか。

→安心して来館いただけるよう、消毒、密を避けるなどの感染防止対策を徹底した。また、今年度は、

特任館長講座を一部リモート開催とした。初めての試みであったが、コロナ禍であっても中止することなく、全て開催することができ、参加者にもたいへん喜んでいただいた。

●毎回興味深い企画を用意していただいているが、どのような企画・立案を経て実現させているのか。
→企画の立案は学芸員、企画会社、共催者それぞれが行う。学芸会議、館長検討、職員会議の順に内容の可否を検討し、その後共催者に提案し、その内諾後に職員会議で正式内定。秋田県議会で正式承認される。

●企画・立案に学芸員の研究内容はどの程度反映されているのか。
→近年、インパクトの大きい新知見のある展示というのはなかなか開催できていないが、画家の履歴調査の最新結果、作品調査で発見された新出作品の展示など、基礎研究の成果を還元するような自主企画展を行っている。企画会社の展覧会であっても、何かしらの新しい要素（秋田展ならではの要素など）を加えられるように工夫している。また、今年度のカラクリ展では、教育普及面の研究を活かし、関連するワークショップを開催し、好評を得た。

●美術館に興味のない人を振り向かせる工夫が集客を左右すると思う。ギャラリートークやワークショップだけでなく、SNSなどを駆使して、企画展の見方、面白いポイント、展示の裏話など、学芸員ならではの知識を積極的に情報発信し、アートの魅力を多くの人に伝えてほしい。
→SNSを駆使した周知については、伝え方、内容をもっと工夫できるよう、他館の例を参考にすすめていきたい。1年を通じやっとな投稿の感覚がつかめてきたように思う。また、Youtubeへの投稿はなかなか次につながらず、反省している。解説のためには基礎研究や作品への理解が欠かせないので、すぐには形にできないかもしれないが、地道に続けていきたい。
もうすこし学芸員の言葉がわかりやすく伝わるような機会が必要ということだと理解している。SNSでももう少し詳しい作品解説を入れるところから始めようと考えている。

●NHKの「日曜美術館」が美術ファンの人気を集めているのは、美術は分かりやすく解説してくれるからだと思う。美術をより深く理解するには、キュレーターの役割は一層欠かせなくなっている。近美にもその役割を期待したい。秋田蘭画など収蔵品をはじめ、秋田ゆかりの作品をディープに解説するなど、美術ファンの興味をさらに深掘りする仕掛け、工夫をどんどん凝らしてほしい。
→これまでは、作品解説などは一般の方にわかりやすいようにと浅く広くの考えで行っていた。これからは、より深い内容をわかりやすく伝えて、美術ファンの興味を引きたい。

【R4～6ミュージアム活性化事業3ヵ年計画案について】

●外部評価するにあたり、アンケート結果だけでなく、事業の目的、予算、実績、成果、内部評価、今後の方向性や対応なども示していただきたい。（1事業につき1枚にまとめて）
→3ヵ年計画案については、生涯学習課とも相談し、より詳細な情報を提示できるよう検討していきたい。

- 興味をひく企画が多いように感じた。多くの方が足を運び、充実したものになればと期待している。
→県民の方一人一人の嗜好は千差万別と思う。なるべくバランスの良い企画構成を考えるとともに、従来とは異なるターゲット層にも響くような内容・広報の展示ができるよう努力したい。

- 観客動員数やアンケートなどから鑑みると、子供が興味を持ってくれる体験型の企画が盛り上がる印象である。3ヵ年計画は全体的に渋めな企画が多い気がするが、展示の工夫次第で、子供からシニアまで楽しめるものになると思う。子供の知的好奇心を刺激するような内容で、子供も大人も楽しめる展示が夏期にあると賑やかになると思う。
→企画会社から提案される展覧会には親子向けのものもあり、当館での開催に向けていけば手を上げるが、それほど多くはない。また、当館独自の企画は予算的に難しいのが現状である。

- 「3ヵ年計画」を立案し、各年度ごとにテーマを設定するというのは、すでに決まっていることなのか。展覧会案を見ると、3年目に子どもや若い人が興味を持つ身近な内容が集まり、ほかの年はどちらかというターゲット年齢が高そうな気がする。
→企画会社から提案される展覧会は、他の館からの希望もあるため、特に人気のものとタイミングによってはなかなか受け入れられないのが現状である。なるべく早く情報を仕入れて希望の展覧会を希望する時期に入れ、年度でバランスの取れた内容としたい。

- 毎年、方向性を定めることも一つの考え方と思うが、1年間同じようなテイスト、イメージの展覧会が続くと受け取られると、ともすると変化に乏しく見えてしまうおそれも感じる。今年度はバラエティに富んだ展覧会が3つ揃っていたと思う。来場客の層もそのたびごとに異なり、結果としてさまざまな層が親しめる気もする。
準備の都合もあり、簡単に計画を見直すことは難しいと思われるので、この3ヵ年については計画通り進めることもありうると思うが、計画と展覧会の内容、入場者の状況についての知見をその後にかしけていきたい。
→各年度のテーマ設定については生涯学習課の方針だが、内容的には縛られずに考えて良いと指導を受けている。カラクリ展の印象から、工芸・デザイン分野の展示企画も検討していくべきだと感じた。2022年度については、開催出来るタイミングもあって決定したが、内容の偏りを反省している。秋田蘭画は、R6の開館30周年にあわせても良かったと思う。企画の段階で長期的視点に欠けた。

- 平面作品ばかりではなく、立体作品の展示も欲しいと思った。R5の伊藤若沖の作品展示はぜひとも実現して欲しい。ジブリ～(R6)は現在アトリオンで開催されているものの二番煎じの様にならないように注意されたい。
→予算等の都合もあるが、立体・工芸分野の展示も今後増やしたいと考えている。企画会社だけではなく、清水三年坂美術館のような一箇所で大量収蔵している美術館との連携なども検討したい。R5については希望が実現している。R6ジブリ展については、これまで近隣で開催されていない企画の展示と聞いている。打ち合わせを緊密に行いたい。

- 秋田蘭画と岩合光昭さんの展示は名前に既視感があるため「またなのかな?」「それしかネタがないのかな?」と感じさせないようなPRが必要になると感じた。

→岩合展については、依然として再開催の要望は多いが、仰る通りとも思う。現在、違う作家の昆虫写真の話も進行しているので、長い目で見ていただければ幸いである。秋田蘭画については、県内ではよく聞く名前だが、知らない人は意外と多い。広報物のデザインなどを工夫し、若い人の目にとまるように努力したい。

●R6年は美術館の開館30周年のようだが、あまりお祝い感のない印象を受けている。

→開館30周年感がないというご意見は仰る通りだと思う。できれば秋田の作家で大規模展示を開催したかったが、単館での開催が厳しく断念した。秋田蘭画展は改修工事の可能性や、貸出先、共催者の状況などを考慮しR4開催としたが、R6でも良かったと思う。この点は長期的視点に欠けていた。今後協議会でも数年先の状況を共有できるようになるので、席上でご意見いただきたい。

●他の美術館などの収蔵品を秋田で見ることができるのは本当に嬉しい機会だなと感じ、今から楽しみである。

→他館の収蔵品の件、多様な展示が求められていると思うので、企画の情報収集に務めたい。

●デザインやサブカルチャー系（漫画・イラスト・書籍など）の展示をもう少し増やしてもらえると秋田県内のクリエイターが喜ぶだろうと感じた。

→デザイン領域（書籍含む）の展示企画はもっと増やした方がいいと実感している。企画会社のものでなく、自館で企画できないか考えてみたい。漫画についてはまんが美術館との兼ね合いはあるが、アニメなどは検討出来ると思う。

●メディアとの共同事業により、より情報が市民へ発信されると思う。事業内容も幅広い世代対象になっていて、小さい子の親子連れの集客につながると感じた。

→現在、秋田魁新報社、ABS秋田放送、AAB秋田朝日放送と共同で展覧会を開いているが、R4には新たにAKT秋田テレビと初めて組むこととなった。メディアの力を借りて、より多くの県民へ向けて事業の発信をするよう取り組んでいきたい。

●県書道連盟では、会報を年2回発行している。例えば、令和4年度の「サントリー美術館展(仮)」について、収蔵の佐竹本三十六歌仙等、書としても名高い展示品があることが事前に分かれば、会報に掲載することで宣伝に協力できる。

→《佐竹本・三十六歌仙絵源順》のほか、《病草紙断簡「不眠の女」》などの絵巻にも書が見られるものがあるので、ぜひ宣伝していただければと思う。

●三の丸尚蔵館は、喪乱帖、玉泉帖、粘葉本和漢朗詠集と書の名品が所蔵している博物館であり、楽しみにしている。

→残念ながら、今回は近代日本画というコンセプトのため、書道は展示されない予定である。

●岩合さんの写真展は人気があり魅力的だが、定期的には開催されている理由は何か。

→アンケート等での要望が多いためである。

●それぞれの企画展はいずれも興味深いので、より集客を高めるため、学芸員による一歩掘り下げた「解説」に期待したい。

→より深い内容の解説により、展覧会を一層興味を持って見てもらえるよう取り組みたい。

●R6年度のジブリ展は、魁創刊150年です。

→ミュージアム活性化事業3カ年計画の資料に創刊130年と誤記していた。ご指摘のとおり原本を修正する。魁の担当者、実行委員会で冠をつけるよう検討したい。